

# 役員企業訪問

## 第3回 本会 楠下広師副会長（有限会社ひろや商店）

今回は、楠下広師副会長の企業である柳橋連合市場内の有限会社ひろや商店を10月末に訪問しました。楠下副会長に、会社の歴史、経営に対する思い等を語っていただきました。インタビュアーは中小企業診断士の藺田久恵氏です。



楠下広師社長

### 会社概要

会社名：有限会社ひろや商店  
会社設立：創業 昭和44年9月  
代表者：代表取締役社長 楠下 広師  
所在地：〒810-0003  
福岡市中央区春吉1丁目6番23号  
TEL：092-761-3123  
FAX：092-761-0529

## 1. 柳橋連合市場の歴史

—柳橋市場の歴史は古いですね。

**楠下：**開設は大正7年です。那珂川のたもとで市場を作って魚を売っていたのが始まりで、その後、昭和初期に現在のアキラ水産のおじさんの時代に土地を買い取って、今の場所に明百貨店をつくっていました。当時の写真を見ると、この通りには朝日の形の大きな看板があがっていて勢いを感じますね。

—私も、年末には買い物に来ますが、あの時はすごいですね。朝早く来ないとすごい人出になって。

**楠下：**そうそう、当時は毎日そういう賑わいでした。昭和40年代は、小料理屋のおかみさんが

割烹着をつけて毎朝買い物に来ていました。昔は、スタンドバーと小料理屋しかないわけで、すごい活気でしたね。もうみんな店前で、「いらっしゃい」「いらっしゃい」と。

でもそれよりも多かったのが、毎年11月第1日曜日に開催していた大起業祭の「うまかもん祭り」ですよ。この時は年末以上でしたが、今は中止になりました。昭和52、3年には73名の組合員がいたのですが現在は36名、半分になりましたね。

—柳橋というと、業務用というイメージがありますが、業者さんも他所で買うようになったということですか？

**楠下：**いや、それよりもやっぱり一般のお客さんが減ったんですね。スーパーに行くようになりましたから。

## 2. ひろや商店の経営

—社長は、ご出身は？

**楠下：**熊本の八代です。18歳のときに博多の千代町に出てきました。昭和33年くらいですね。昔は千代町あたりも電車が通っていて、その通り沿いの三栄豊材という会社に就職しました。親父が農協に勤めていて、八代はいぐさの本場だったので豊屋と知り合いで、その親戚の店に行ってくれないかということになって、じゃあ行こうとボストンバッグひとつ持って。当時は汽車だったものだから、着いた時には顔は真っ黒になっていました。

豊屋に卸すゴザとか、針とか糸とか全部扱っていて、朝倉であろうと宗像であろうとどこへでも行ってましたから。昭和36年くらいだったかな。この市場にも来ましたね。

—何年くらい勤められたのですか？

**楠下：**足かけ4年です。なぜ辞めたかというのと、

博多に来て、柳川でゴザができるということをはじめで知ったんです。産地は岡山か熊本だけかと思っていたので、これは将来畳ゴザを柳川から直接売りに来る時代が来る、と思って、だから辞めて市場の食料品店に代わったんです。

—では、来られた時から、ご自分でなにか商売をしようと思っておられたのですね。

**楠下：**ええ、自分はこういう性格なので、出てくるときは「よし博多で商売をするぞ」という気持ちで出てきましたね。で、昭和44年の9月に「ひろや」を開業したんです。

—独立されてからは、順調でしたか？

**楠下：**そうですね。独立して店舗の上に住んで、当時家賃が3万でしたが、私は1日3万円売ればいいと目標をたてて頑張りました。前の店は小売り専門でしたが、10年近くお世話になった店でしたから、当然お客さんには案内など出せませんでした。自然に私の店もお客さんも増えてね。小売り専門のころは、塩サバとか作りめんたいとか、鮭の切り身とか売っていたんですが、昔は冷蔵庫もなくて、夏場には傷んだりしていましたが、でも昔はおおらかな時代だったので良かったです（笑い）。

あの鳴海屋さんもこの市場のなかにおられたんですよ。で、なぜわたしが業務用に切り替えたかということ、あの鳴海屋さんには朝から男性のお客さんが多くて、なぜかなと思っていたら、板前さんだったんです、ああ、これからはこういう時代だなと気がついてね。

—お取り扱い商品は、やはり海産物が主体ですか？

**楠下：**そう、珍味商品ですね。今は冷凍食品の品質がとても良くなって冷凍品主体になりました。なぜかという、結婚式などもそういう商品を使った方が安全なんです。それをアレンジするわけですね。それとおせちの材料ね。今おせちの材料の80%は冷凍です。

おせちといえば、昔は料亭のおせちというのは1年間お世話になったお客様へのお礼にプレゼントしていたんですよ。炭鉱のさかんな時代です。うちの店がオープンした昭和40年代には、まだ西中洲に昼間配達に行くと三味線がバンバン鳴ってましたから（笑い）。私たちが一生懸命働いたのはそういう時代でした。景気が良くて

楽しい時代でした。

### 3. 社会貢献活動のこと

—福岡市の自治協議会等7区会長会の会長もされていますね。

**楠下：**福岡市は、自治校区が149校区ありますが、今年は自治協議会が全部そろったので、セントラルホテルで149校区の会長に案内して、市長、市民局長、7つの区長も揃って交流会を持ちました。今年11月の市政だよりはには街づくりのことを書いています。

私は、社会貢献しない企業はだめだと思っています。明太子のふくやさんもとても熱心ですね。先代が「企業はもうかって社会貢献しなさい」と言われていたのですが、今の社長も社会貢献活動に多額の出費をされてすごいですよ。人の役に立つようでないとお客も繁盛しないですね。

#### インタビューを終えて

楠下社長は、博多を中心に戦後草創期に活躍したいろいろな方をご存じです。興味深い裏話などから、事業者たちがいろいろな形でかかわって町の土台を支えていることを知り、福岡の街の厚みを実感しました。しかし、社長が、笑いのなかで語った繁栄の姿は昔日のものとなり、柳橋連合市場がこれからのように将来の姿をデザインして進んでいくのか、難しい時代にあることも痛感しました。

(中小企業診断士  
 蘭田久恵)



会社の外観